

## かわいい踊りと名演技を披露 3地区の保育所でお遊戯会

町内3保育所の「お遊戯会」がそれぞれ開催され、多くの保護者や地域住民が参観しました。お遊戯会は、今年度から新設されたふたば組(1、2歳児)からさくら組までの全児童が、これまで練習を重ねてきた「劇」や「ゆうぎ」などを披露し、子どもたちの素晴らしい発表に会場からは大きな拍手が送られました。また、今年小学校に入学した新1年生も会場を訪れ、歌や演奏などで成長した姿を披露しました。



▲(11月16日、只見保育所)昔語り「さるとうさぎとびっさ」を披露したひまわり組8名の皆さん



▲(11月20日、朝日保育所)華麗な舞いを披露したさくら組3名の皆さん



▲(11月30日、明和保育所)今年新設されたふたば組8名によるリズム遊び



▲主催した「笑むでるくらぶ」代表の鈴木サナエさん(右)と大西暢夫監督(左)



▲多くの方が参加した会場

## ドキュメンタリー映画 「水になった村」を上映

10月28日、ダム建設により水没してしまう山村のドキュメンタリー映画「水になった村」の上映会が青少年旅行村いこいの森の古民家で開かれ、約80名が来場しました。これは、地域住民でつくる「笑むでるくらぶ」が主催したもので、ダム建設により同様の歴史がある只見町で上映しました。映画は、1957年の岐阜県徳山村を舞台に、ダム建設により沈んでしまう村に、できる限り暮らし続けた人々を写した映画で、監督で写真家の大西暢夫さんが15年間東京から通い、その姿を追い続けたものです。

上映会では大西監督の講演会が行われ、ダム建設が決まり沈むまで自分の家で楽しく暮らし続けた人々について紹介されました。主催した「笑むでるくらぶ」代表の鈴木サナエさんは、自身も田子倉に所縁があり、「映画をとおして、只見に暮らすことへの誇りを感じてもらいたかった」と話していました。

## ブナと音楽が寄り添う場所で恩返しライブ

# 大竹涼華さん「BEECH AND MUSIC」開催

11月3日、只見字田中出身の高校生シンガーソングライター・大竹涼華さん（只見高校3年）の恩返し音楽イベント「BEECH AND MUSIC（ビーチアンドミュージック）」が只見スキー場ロッジで開催され、町内外から多くのファンが来場しました。大竹さんは、恩師の影響で中学3年からギターを始め、高校1年生のときにギター弾き語りコンテスト「アコワン・グランプリ」で優勝。以降は、風とロックCARAVAN福島など町内外の数々のステージに参加してきました。今回のイベントは、大竹さんが高校を卒業する前に、これまで自分を応援してくれた方々への感謝の気持ちを伝えるイベントとして、町内有志の方々でつくる実行委員会が企画しました。

ステージには、風とロックCARAVAN福島で共演したミュージシャン渡辺俊美さんやひとりぼっち秀吉バンド、シンガーソングライターMANAMIさんなど全5組が出演し、一緒にライブを盛り上げました。大竹さんのステージでは、「自分を育ててくれた只見町とこれまで出会った人に感謝を伝えるためにこのイベントを開催しました。夜な夜なお父さんと眠いと言いながら準備したのも良い思い出です」と話し、オリジナル曲など全4曲を感謝の気持ちで熱唱しました。高校卒業後、大竹さんは東京の音楽系専門学校に進学する予定で、将来はプロデビューを目指します。



▲感謝の気持ちを込めて熱唱する大竹涼華さん



▲多くのファンが詰めかけた会場内ではライブのほか、飲食物の販売コーナーを設け、JR只見線の写真展を開催。電車が通過する午後6時半ごろには、来場者とともにスキー場から只見線に手を振りました

## 小川サロンと湯ら里で寄席

# 三遊亭鳳楽師匠の「独演会」開催



▲小川サロンで落語を披露する三遊亭鳳楽師匠

10月26日、小川地区の65歳以上の地域住民が集い活動する地域づくりサロン事業「小川いきいきサロン」で、落語家・三遊亭鳳楽師匠の独演会が開催され、住民約70名が集いました。

鳳楽師匠は、「小川サロンで落語するのは今年で5回目。笑いは健康に良いので沢山笑ってほしい」と話し、「牛ほめ」という噺を披露しました。会場は大きな笑いにつつまれ、終了後には集落の方々から感謝の言葉と地域の特産品がプレゼントされました。翌日には、季の郷湯ら里でも「第13回湯ら里寄席」が行われ、多くの町民に笑い与健康が届けられました。



## ライザップと連携し健康増進を図る 「イイからだづくりプログラム」

11月8日、只見町とRIZAP（ライザップ）が連携する健康づくり事業「イイからだづくりプログラム」の第1回講座が只見振興センターで開かれ、受講生全20名が参加しました。これは、町の健康課題である「肥満」や「糖尿病」などの予防・改善を目指し、「結果にコミットする」をうたうトレーニングジム・ライザップの3ヵ月（全8回）出張型プログラムに取り組むものです。第1回講座では、ライザップトップトレーナーから3ヶ月後の目標設定や低糖質の食事、消費カロリーを大きくするトレーニング方法などを学び、参加者は目標への第1歩を踏み出しました。



▲正しい知識でトレーニングを行うことが重要と話すライザップトレーナー

## 米焼酎「ねっか」が快挙！ 香港の国際品評会で「金賞」受賞

合同会社ねっかの米焼酎「ねっか」がアジア最大級の酒類品評会「香港インターナショナル・ワイン&スピリッツ・コンペディション（香港IWSC）」の焼酎部門で最高賞の「金賞」に輝き、11月21日に同社の脇坂齊弘代表が菅家町長を訪れ、受賞報告しました。これは、アジア最大級の酒の国際コンクールで、今回米焼酎「ねっか」は販売開始から約1年半で金賞に選ばれました。

受賞報告では、脇坂代表が「イギリスでの国際品評会IWSCで2年連続銀賞に選ばれ、今回香港IWSCでも金賞を取ることができた。今後も国内外に出荷先を広げ、只見町の米づくりや酒づくりを盛り上げていきたい」と話し、菅家町長がその功績を称えました。



▲今年銀賞に選ばれたIWSCの賞状を手にする脇坂代表（中）と金賞に輝いた香港IWSCの賞状を手にする菅家町長（右）、同席した橋本副町長（左）

## 主要農産物で交流と食育を推進 只見町と柏市で学校給食食材交換

11月21日、ふるさと交流都市千葉県柏市と只見町が行う「学校給食用食材交換事業」として、町内の小中学校で柏市産ブルーベリーを使った給食が提供されました。これは、平成24年度から行われている事業で両市町の主要農産物を交換し交流と食育の推進を図るものです。柏市からは、大粒のブルーベリーが提供され、只見町からはこだわりの只見産米「コシヒカリ」を柏市立柏第八小学校へ提供しました。朝日小では、全校児童に柏市の生産者や食材交換事業の経過、ジャムにするまでの工程などが紹介され、食材をとおして柏市との交流が深められました。



▲柏市産ブルーベリージャムをパンにつけて美味しく食べた朝日小児童の皆さん

## 只見の自然環境を活かした取り組み 自然を満喫する「ヨガ合宿」開催

10月27～28日、会津若松市のヨガスタジオ「Well-being Studio 9C」のヨガ合宿が只見町を会場に開催され、町民なども参加しました。これは、只見の自然環境を活用したヨガ教室で、5月から月2回朝日振興センターなどを会場に開催し、今年最後となった今回は合宿を行いました。合宿では、森林の分校ふざわに宿泊しながら、ヨガ体験やブナ林散策などを行い、自然豊かな只見で健康増進を図りました。



▲Wellbeing Studio 9C の仙波修子さんが講師を務めたヨガ合宿

## 朝日地区地域づくり委員会と朝日小が連携 朝日小で「イワナつかみ体験」実施

10月30日、朝日小学校で「イワナつかみ体験」が行われ、全校児童が参加しました。これは、朝日地区地域づくり委員会と朝日小が連携して実施したもので、同校に仮設の生け簀を設置してイワナを放流しました。児童たちは、イワナつかみからイワナさばきまで体験し、委員会の方々が炭火でじっくりとイワナを焼きあげました。焼きあがったイワナを食べた児童からは「美味しい!」という声が聞かれました。



▲焼きあがったイワナをみんなで食べる3、4年生の皆さん

## 新潟県魚沼市の伝統食を学ぶ 「魚沼郷土料理講座」を開催

10月30日、新潟県魚沼市の郷土料理を学ぶ「料理講座」が只見振興センターで開かれ、約20名が参加しました。これは、同センターが企画したもので、講師にゆのたに茶々の会(魚沼市)の大桃久子さん、佐藤あさのさん、志田アケミさんの3名を迎え、新潟の名物「笹団子」の作り方を学びました。

講座では、調理方法や笹の巻き方などを学び、参加者は新潟の伝統食への知識を深めていました。



▲笹団子の作り方を学ぶ参加者の皆さん

## 親子で楽しく運動会 かるがもクラブで運動会を開催

11月10日、かるがもクラブの「運動会」が只見振興センターで開かれ、10組32名の親子が参加しました。このかるがもクラブは、子育て世代の親子の交流の場として実施しているもので、保健福祉課と民生児童委員が連携して親子をサポートしています。

運動会では、トンネルなどをくぐる障害物競走やおやつ拾いなど全3種目が行われ、参加した親子は協力しながら競技を楽しんでいました。



▲おやつひろいの競技で、宙ぶりになっているおやつをジャンプして取る子どもたち